

『主の道を用意せよ』(イザヤ書 40 章 1-11 節) 2023.11.26.

<はじめに> クリスマスまで一カ月となり、各所に飾り付けがされて、雰囲気も高まって来ました。大切に楽しみなことを待ち望む時間は素敵です。やがて来る新しい展開に心は高鳴ります。それが、自分にとってとても意味のある喜ばしいことなら、なおさらでしょう。

I 神の語りかけ(1-2、6-8)

① 慰めよ、慰めよ、わたしの民を(1-2)

私たちが神に目を向けるときは、祈り願うとき、自分を省みる機会ではないでしょうか。その時の神の表情はどうでしょうか。本書 1-39 章で神は人に厳粛に向き合われています。その神が「慰めよ、慰めよ、わたしの民を」とやさしく語りかけ、呼びかけています。

② 慰めの中身(2)

答・罪は各人の心と生活の中に見出される、神が示し備えられた道からの逸脱です。神は聖く正しい方ですから、これらに厳粛に対処されます。しかし、ここでは「その」結果である苦役は終わり、答は償われ、罪に代えて子としての立場に回復される、と語られます。

③ ……している、と(2、6-8)

厳粛な神が突然変わって、緩くなったのでしょうか。むしろ、神の厳粛さの前に、肉なる者・人は移ろいやすく、空しさが際立ちます(6-8)。そのことを熟知される神は、なおも人を愛される神です。だから人を引き上げるために、もう回復は実現している、と語られます。

II 叫ぶ者の声がする(3-11)

① 良い知らせを伝える者

この神からの慰めのメッセージは、神の前に沈み、打ちひしがれる者にとって一大ニュースです。この良い知らせを受けた者は、神の代言者、預言者です。彼は広く伝えるために、高い山・町々で、力の限り声を上げ、叫びます。「見よ、あなたがたの神を」(9)と。

② 主の道を用意せよ(3-5)

荒野・荒地は、起伏が激しく人手つかずの地です。そこに真っ直ぐな大路を設けるよう、代言者は叫びます。この預言の成就として御子イエスの誕生に先立ち、バプテスマのヨハネが現れ、「主の道を用意せよ」と呼びかけました(マルコ 1:1-4)。

③ 統治者、主人、牧者(9-11)

「見よ、あなたがたの神を」(9)と叫ぶ声は 3 枚の絵を示します。神は力ある統治者、それは私たちの最終責任者で、漏らすことなくすべてを報いる有能な主人です。また、羊の群れを飼い、個々に必要最適なケアを与え、優しく導く羊飼いです。

III この知らせの受信者へ

① 声を聞け

語り掛ける神と、神の使信を伝える叫ぶ者の声は、聞き手あつてのものです。それは慰めと赦し・回復を神の側で既に用意してある、という良い知らせです。先入観や慣れで聞き流して、良い知らせを見過ごしにしないようにと、今もこの叫ぶ声は響いています。

② 神を見よ(5,9,10)

霊なる神を見よ、とは矛盾と思われれます。しかし、神は様々な方法で、今もご自身を現されます。御子イエスの誕生と生涯はその最たるものです。また、神を見た人たちの証言もあります。あなたは、神がどんな方だと見えていますか。どうしてそうだとされるのですか。

③ 真っ直ぐにせよ(3)

荒野は、至難ゆえに放置・放棄した荒れすさみ、ねじ曲がって受け取る私たちの心の姿です。私たちの神・主が、慰めと赦し・救いを携えて既に来られています。クリスマスはそれを喜び祝う時です。素直にこの方を我が神として迎えようではありませんか。

<おわりに> 「見よ、あなたがたの神を」との呼びかけは、今年のクリスマスにも響いています。私はそれにどう答えましょうか。神はただ厳しくさばかれる方ではありません。真っ直ぐ向き合う者を赦し受け留めてくださいます。「あなたこそ私の神です」と素直に申し上げましょう。(H.M.)